裾野麗峰山の会山行報告書

文・勝又　写真・勝又、後藤

山行番　　ＮＯ．１６８４
日　時　　２０１６．０４．３０（土）～０５．０１（日）
山　域　　唐松岳～五竜岳（唐松山荘まで）
コース・　３０日＝下土狩７：００－八方池山荘発１２：２４－八方尾根最上部引き返し１６：００－
タイム　　小屋スタッフと会う１６：１０－唐松山荘１６：３０（泊）
　　０１日＝起床５：００－朝食６：００－小屋発９：３０－八方池山荘１２：２４～５０―
　　上のリフト－下のリフト－ゴンドラ駅１３：２０―ジムニーで送って貰う１３：３９
　　－八方尾根駐車場１４：００―入浴―食事―下土狩１９：４５
標高差　　上り＝八方池山荘約１８５０ｍ～唐松山荘２６２０ｍ＝約７７０ｍ
　　下り＝　　〃
参加者　　後藤、勝又陽、小松

何処までも白い、ホワイトアウトの山

３０日

途中、小松氏をひろい新東名、富士宮経由、中央道・長野道を経て１１時半頃に八方駅着。天候は予報とは違い曇り気味。

ゴンドラとリフトを乗り継ぎ１２：０５　八方池山荘着。ここでスパッツ等の装備をし直し１２：２５唐松山荘を目指して出発した。ガレた岩場から木製の階段を経て八方ケルン（２０３５ｍ）を過ぎ雪で覆われた八方池を右手に見ながらしばらくなだらかな尾根を上る。２１００ｍ付近を過ぎると雪も多くなり上りも急になってくる。登って行くのは我々くらいでほとんどの登山者が下山している。

１４：１５アイゼンを装着、丸山をすぎ岩稜地帯にさしかかる頃からガスが濃くなりホワイトアウト状態になり始め、風も強くなり厳しい状態になってくる。

１４：５０　２５５０ｍ付近ですぐ横の右手に動くものが見える、注意してよく見るとライチョウがこちらをうかがっている。

３：２５頃　２６００ｍ付近、完全にホワイトアウト状態で小屋が見えてこない。少し上った所でリーダーの決断で下山することにする。暗くなる前に八方池山荘に着きたいが最悪の状況だ。頭には悪い事ばかりが浮かんでくるが、細心の注意をはらい一歩、一歩足元を確かめながら降りはじめて少しすると登ってくる人がいる。リーダーが話しかけると偶然にも山小屋の従業員とのことだ。この瞬間、心の中で思わず

「天の助け」と叫んでいた！　男性に続き小屋を目指すとさきほど引き返した場所からあと少し行けば眼下に小屋が見えてくるではないか。

１６：３０　唐松山荘着。無事小屋に着くことができて心からホットし、山小屋の方には感謝の一言でした。小屋には遅く着いたためすでに１００人ちかい人がいるようで、我々の部屋は２号棟で暖房もなく寒いうえ、流しやトイレが使えず１回吹雪いている外に出て１号棟のものを使用する不便さはありましたが、

小屋ですごせるのです、「我慢」の一言です。夕食後、しばらく暖をとり部屋に戻って就寝しました。最悪の天候の中ではちょっとした判断のズレがどんな結果になるかわからないと考えずにはいられず、１日何とか無事におわることができ今後の教訓となることの多い１日でした。

２０１６年・春山合宿顛末記　（文・後藤、　写真・後藤、勝又）

人生には、「幸運」「不運」がある。山もしかりである。連休前半は、遭難事故が多かった。今回は、唐松岳～五竜岳を計画。参加は男子３名。３０日７時、下土狩発。八方池山荘発１２：２４。この時点では、天気はまだ良かった。丸山を過ぎた辺りから、ガスが酷くなり、風も強くなる。

上から沢山の人が降りて来る。聞けば、悪天候で唐松岳は上れず、途中で下山したという。上部岩稜帯から、ホワイトアウト状態が始まり、視界は１ｍになる。稜線は吹雪だった。モーレツな風雪が襲う。唐松山荘を探すが分からない。

唐松岳は、冬・春、何回も上っているが、以前の印象と違う。時間はドンドン過ぎて行き１６時を回った。もしこのまま、小屋が発見できなかったら最悪の事態。実際、今回の遭難で、立山・富士の折立で死亡した２名は、宿泊予定だった山小屋（剣御前小屋か一ノ越山荘？）に連絡があったが、辿りつけなかった。２名はこの日の３０日、既に救助要請をしていた。

ちょっとした岩場まで行き引き返す。実はこの先が小屋に下る分岐だった。八方池山荘まで下るつもりで踵を返したが、果たして下り切れるだろうか？一瞬、昨年暮れのことが思い浮かんだ。しばらく下ると誰か上って来た。聞けば、小屋のスタッフだった。**「地獄で仏」**とは正にこのこと。正直、助かったと思った。

登山を５１年やっている。これに近いことは何回もある。ただ、今回は**「時間がなかった」**。勝手知ったる八方尾根だが、時間切れは厳しかった。計画が甘かった。**「獅子はヤギを射止める時も全力」**という。易しい尾根で出発時間を遅くしたのはマズかった。実際、食堂で隣席した方は、１２時半ころ小屋着で、その時点で小屋は見えたそうだ。山のトラブルを運・不運で結論付けてはいけない。

疑似遭難？で１６：３０小屋着。その小屋も、ほんの１m近くまで来ないと分からなかった。小屋スタッフがいなかったら、本当に分からないだろう。厳しい山だった。吹雪は一晩中続いた。ビュービュービュー、風が小屋を叩く。我々は着が遅かったので、部屋は二号棟だった。

二号棟は渡り廊下で繋がっていた。トイレは、その渡り廊下を通り、一旦外に出る。トイレのたびに、雪にまみれ、スリッパは冷たく濡れていた。

鹿島槍に上っている、あさぎり山の会のM・Eにメールで情報交換。鹿島槍の何処か不明だが、**「こちらの天気は上々。お酒が進んでいます」**だった。鹿島は唐松とそれ程離れていないのに意外だった。ただ、後でいただいたM氏の報告書では、１日朝７時、大谷原着とあるので、この時点では、まだ静岡か何処かにいたかも知れない。

朝、フロントと食堂は１００名くらいの人が溢れていた。天気が良ければ、唐松に上るつもりだったが、天気は一向に良くならない。今回は、何処も上れずお終いか。

皆、下山のだが、いつ出発するか、様子見だった。それでも、ちらほら、何人かは出て行った。我々も好天の兆しがない天気に、いつまで待っても仕方がないで、１０時発を決めた。

小屋で驚いたのは、その価格。小屋代は、何と**「９８００－」**だった。ここは**「労山割引」**はない。それにしても高い。下界の民宿のが余程安い。背景には、食事のご飯も美味しいし、トイレもキレイ。要するに、その位にしないと、評判が落ちる。南アの某小屋のように今も「ぼっとん便所」はない。ただ、部屋は暖房がなく寒かった。従業員に**「部屋は寒いね」**といったら、**「五月では、そんなものです」**と、にべもなかった。

下の樺

丸山下

また、素泊まりの連中は、小屋内に自炊部屋がない。従って、モーレツな吹雪の中、外でコンロを焚いていた。これでご飯が出来る？？！！。お金がないのか、節約なのか、見上げた根性だが、これって**「格差社会」**の一端か。タバコは小屋内禁煙。これは歓迎。

朝食後、支配人から、今日の天気・行動注意などの話があった。皆さん、緊張気味で聞いていた。宿泊者には、高齢者とおぼしき方も多かったが、この方々は、果たして今日無事に下れるだろうか。

９時半小屋発。前を３名歩いていた。この中の一名には世話になった。小屋の降り口に支配人がいた。**「気を付けて」**と見送ってくれた。しかし、１０分歩くと、モーレツなホワイト・アウト。早くもルートが判然としなかった。全くルートが分からない。真っ白、真っ白、真っ白な世界が続く。こんな時、スプレーで、雪の色を変えたらイイ思った。（本当に！！）

それとも、特殊な眼鏡で、特殊な光線を照射し、ガスと雪を識別するとか・・・。現在の科学なら、可能かと・・・。

小屋の食事

こんな時、活躍したのは、やっぱりＧＰＳだった。一緒に小屋を出た３名の１人が持っていた。要するに昨日、上って来た軌跡を辿り下れば良い。今まで、どんな雪山でも、**「２万５千図・高度計・コンパス」**でやって来た私も、考えを変えなければ駄目かと思わされた。

しかし、それでも困難を極めた。一度は、真新しい立派なトレースがあり、しめたと思い暫くそれを辿ったが、よく観察したら、それは我々が先ほど下って来たトレースだった。これは、いわゆる**「リング・ワンデリング」**だった。意外だったのか、Ｋ・Ｍで、眼がイイのか、**「こっち、こっち」**と水先案内をしてくれた。

それでも少しづつだが、ガスが薄くなったような気がした。大きなケルンがあった。丸山下のケ

ルンだった。ここまで来れば、尾根が立っているので、分かり易い。
　下から３名上って来た。７０代とおぼしき男子高齢者２名と３０代位の女性。今日、初めて会った登山者。何処から来たのだろうか？というのは、この日は、最高風速３３ｍで八方のゴンドラとリフトは全て運休だった。
　従って、今日下からは誰も上って来ない。来るとすれば、昨日、八方池山荘に宿泊者しかいない。しかし、小屋が**「こんな悪天候で、登山を肯定するだろうか」**。

　これから上る３名に止めた方がイイと諭した。彼らはピッケルを持参していなかった。今回もピッケルを持たない輩が多かった。
　ストックでは、滑落した時、制動を掛けられない。仮に今日、八方池山荘から来たならば、小屋もそのような進言をしたほうが良い。勿論、登山を中止させる権限はないが・・・。
　それに失礼だが、一見して**「素人然としていた」**。このまま突っ込めば、遭難の可能性は大きい。今回、北アルプスの多くの遭難は、３０日～１日だった。

雷鳥さん

　山の遭難を看過出来ない。最初戸惑っていた３名だが、次第に事の重大さを理解し、結局、最後は分かってくれ下山に向かった。我々も、この辺りから視界が開け、戸惑うことはなかった。

　しかし、風は半端でなかった。何度も飛ばされそうになった。元々、八方尾根は風が強い。だから、八方池山荘から上の尾根は殆ど樹木がない。ここは、いわゆる**「風道」**なのだ。思うに、この

唐松岳西には、唐松岳より高い山はない。真西は丁度、富山湾。富山湾が**「漏斗の役割」**で集結した**「風塊」**が、白馬岳、鹿島槍より低く鞍部状の、この唐松岳を吹き抜けるのではないか・・・。

昔、冬、下の樺でテン泊した。一晩中、烈風でエスパースの天井が顔までへたり、眠れなかった。前述したが、今日は誰も上って来なかった。その理由が、八方池山荘まで来て分かった。風速３３ｍの強風でゴンドラ・リフトが動いていなかったのだ。

従って、上のリフト２本分を歩いて下った。ここを歩くのは初めて。誰もいない、静かなスキー場は、何か妙な感じだった。雪のないスキー場に、春一番の花、**「猩猩袴（しょうじょうばかま）」**が沢山咲いていた。

１３：２０、無事ゴンドラ駅に到着。ここからマイクロバスが運んでくれると、上で言っていた。ところが、先ほど団体が下ったので、しばらく、車は上がって来ないので、次は、１５：００という。これでは、頑張って下って来た甲斐がない。

係りは３０代頭の女性。まあまあ、応対はイイ。**「何とかならないか」**で、粘り強く交渉の結果、小さい車なら来れるの返事。小さい車は、ジムニーだった。下れればこの際、何でもＯＫ。

中年の方の運転でゲレンデ北側の道路を下る。ここも通過するのは初めて。これもゴンドラ運休の恩恵。今年はやっぱり雪は少ないとのこと。チケット売り場まで送って貰い終了。窓口でチケット保証金５００－×３を受け取る。

Ｋ・Ｍが珍しく、**「ゴンドラに乗れなかった補償はないか？」**で窓口に交渉に行ったが、あえなくアウトだった。内容は、**「その日、上がって、下れない場合は、補償する」**だった。

駐車場はガラガラ。近くの温泉に入る。７００－。次は、オリンピック道路の**「飲者屋」**でソバを食べる。ソバは、まあまあだったが、頼んだ**「馬刺し」**は、霜降りで好みでなかった。**「馬刺し」**は、**「やっぱり芦安の賢弟、Ｓのだなぁ～！！」（笑い）**

「飲者屋」

脱サラ店主と奥様

霜降り馬刺し

全員、休暇は明日までＯＫ。何処か・・・例えば、焼岳など・・・スッキリした登山をしようかの思いもあったが、何故か意気が上がらない。結局、帰静した。今期これで、撤退山行は４回目。（小槍山・谷川岳・石割山・唐松岳）。宿題が溜まってしまった。２０時過ぎ、下土狩着。それでも、しっかり**「反省会」**を済ませ帰宅した。

まとめ

１．当たり前だが、山は「早出・早着」である。行動時間切れは最も厳しい。
２．ＧＰＳを研究し用意する。
３．今回の天候は、当初、地上天気は１日～２日、晴れだった。しかし３０日、日本海北に発生したＬが北アルプに悪天候をもたらした。これは、庄野氏の報告でも明白。参考にして下さい。
http://tanken.my.coocan.jp/tanken-2016yari.html
http://tanken.my.coocan.jp/tanken-2016yari2.html

追伸　　あさぎり山の会７名は、１日～２日、赤岩尾根テン泊で鹿島槍に登頂した報告あり。

おわり